

今後の活動や行動につなげ、 新たな一歩を踏み出そう

9つのグループに分かれて熱い議論を展開

東京清掃
第58年次
地方自治研究集会

第58年次地方自治研究集会（以下…自治研集会）を10月2日に開催しました。今回も7月に開催した組織集会の形式を活用し、複数の会議室をリモートで繋ぎながらの形を取り入れ、各支部・各地域から自治研専担者を中心に74名での一日開催となりました。

午前中は、自治研の重要性を再確認するため、「自治研活動と職場の活性化」と題し、自治労働本部 笹川組織対策担当局長を、お招きし講演をして頂きました。冒頭では、「自分たちの賃金・労働条件の改善だ

けに取組んでいる労働組合は、市民からの共感を得られない」と自治研活動の根幹と歴史に触れていただき、ご自身の出身職場である八王子市で取組んでいる報告を頂き、「練馬支部」からは、練馬人権センターと部落解放同盟練馬支部との共催事業の「練馬地域ふれあい食堂」に、一緒に参加をすることで感じ得られてきたことを報告して頂きました。

午後からは、グループ討議を実施してきました。各グループのテーマは違いますが、厳しい社会情勢の中でも、改めて自治研活動に



▲都本部笹川組織対策局長による講演

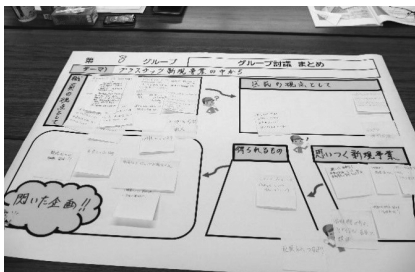


▲熱のこもったグループ討議



▲熱心に講演を聞き入る参加者

繋げる一歩を踏み出していくにはどのように取り組むべきかという、隠れた共通テーマをもとに、硬い頭を柔らかくしながら、ユニークな発想やアイデアを出し合うことができました。ポストイットを活用し、思い浮かんだアイデアから、議題や内容を広げ、実際に取組みたい具体的なイメージを創り上げてきました。また、話が脱線してしまっても、どこかで掘割けながら討議してきたことで、きちんと元のルールに戻り、今後の取組に活かせる答えやヒントが持ち帰れたのでは



▲たくさんの意見が出されていました



▲グループ代表による発表



▲今年もWEB併用にて総決起集会を開催

10月4日(火) 中野サンプラザにおいて、「2022都本部現業統一闘争(第2次闘争)総決起集会」がWEB併用で開催され、わが組合からは現評役員を含む9名で対面参加しました。主催者を代表し吉野現評議長(青梅市職)からは、



▲決意表明する高橋常任

最後に集会決議を上程。今年もWEB併用にて総決起集会を開催

これまでの運動の成果が着実に
新規採用区数は区移管以降最多を更新

過去2都本部現業統一闘争(第2次闘争)総決起集会でWEB併用で開催され、わが組合からは現評役員を含む9名で対面参加しました。主催者を代表し吉野現評議長(青梅市職)からは、

最後に集会決議を上程。今年もWEB併用にて総決起集会を開催

これまでの運動の成果が着実に
新規採用区数は区移管以降最多を更新

最後に集会決議を上程。今年もWEB併用にて総決起集会を開催



▲地元「東嘉会」より歓迎を受ける

賞の表彰や東京大学斎藤准教授の記念講演などに続き、基調提起では沼津市職員の職場自治研活動から始まった「ごみの分別収集」について、当時の状況と苦労をインタビューした映像が流れ、チャレンジサポート報告の選考では相模原市職員労組が優秀企画賞を表彰されました。最後にパネルディスカッションでは幅広い意見が交わされて一日目は終了しました。

二日目は多種多様なテーマの参加で得た知識と経験を職場、組織へ持ち帰り、ルネサンスで活かしていきたいと思います。

第39回地方自治研究全国集会「全国自治研」が10月7日(金)から8日(土)にかけて静岡市で開催。わが組合からは7名が参加、全国からは1066名(対面952名、ウェブ1114名)の参加でした。

初日の全体集会では、静岡市職員の職場自治研活動から始まった「ごみの分別収集」について、当時の状況と苦労をインタビューした映像が流れ、チャレンジサポート報告の選考では相模原市職員労組が優秀企画賞を表彰されました。最後にパネルディスカッションでは幅広い意見が交わされて一日目は終了しました。

静岡から自治研活動の再生・復活を
交流を基に、様々な情報と知識を得る

第39回
地方自治研究
全国集会

(栗澤 紀和)

天野 孝信